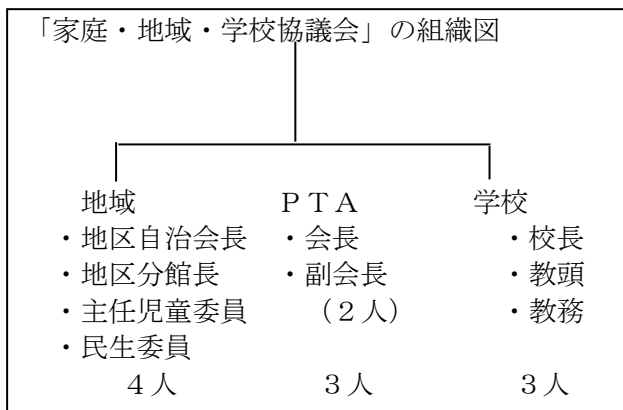


令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

福井市羽生小学校 校長 山本 智裕

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



地域コーディネーター (3名)
・美山公民館長、美山公民館羽生分館長
羽生幼・小学校P T A会長

(2) 協議会の開催計画

協議会は年4回開催した。日程は、5月31日、11月22日、2月28日に行った。中学校区の協議会は6月24日に行った。

協議内容は、

- ・家庭・地域・学校との連携
- ・体験活動の充実
- ・地域の施設や人材の活用
- ・学校のスクールプランや評価
- ・美山中学校区教育

以上のことについて話し合った。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

児童が、ふるさと(羽生地区及び美山地区)の気候、風土などから学ぶ活動を行った。そばの在来種である「南宮地産」の話を聞いた後、種まきを行った。また、米作りも同じように学んだ。福井市の中でも雪の多い地方であることを活かし、スキー教室を行う予定であったが、積雪がなく実施ができなかった。その代わりに、美山地区の画家、豊田三郎氏についての出前授業を行った。これらの活動を通して、ふるさとに愛着と誇りをもつことをねらいとした。

(2) 活動の実際

①米作り体験と地域での活用(5・6年生)

5・6年生が主体となって、田植えから稲刈りまでを学校田で行った。地域の方を講師に、杵を使っての田植えや鎌を使っての稲刈りなど、昔の米作りを体験しながら収穫まで行った。収穫した米を、本校の学習発表会「羽生フェスティバル」後の昼食(太巻き寿司)に使った。美山公民館羽生分館と協力して、児童、保護者、地域の方全員



稲刈りの様子

で太巻きづくりを行った。保護者だけでなく、地域の方々も100名余り参加した。太巻きづくりだけでなく、多くの方に総合的な学習時間で学んだことの発表や合唱、合奏なども見ていただき、地域の方々に学校のことを知っていただくよい機会となった。

②そばの栽培、そば打ち体験(3・4年生)

福井県のそばの在来種として、「南宮地産」がある。校区内で長年受け継がれて育てられ

たそばなので、栽培することにした。種は、福井市農林水産部農政企画課に依頼し、提供してもらった。地域コーディネーターの方に農地を耕し、蒔く準備を整えていただいた。8月2日に児童は、コーディネーターの方から「南宮地産」のそばの特徴を聞いて、種まきを行った。残念ながら、この夏は猛暑が続き、上手に生育せず収穫することができなかった。しかし、美山長寿そば道場でそば打ち体験を行うことができた。



そばの種蒔き

③地域の偉人から学ぶ活動（5・6年）

福井市内でも、本校は積雪の多い地域である。例年、雪に親しむ活動を取り入れているが、本年はほとんど積雪がなかったため、スキー教室を実施することができなかった。そこで、計画を変更し、美山地区の偉人である画家の豊田三郎氏について学ぶ出前授業を行った。道徳の副読本の教材を使い、豊田氏の美山地区に対する思いや絵画で表現しようとした美山地区の美しさを学んだ。講師には地域コーディネーターの紹介で、元美山公民館館長の方に来ていただいて、実際に絵を描いているときの豊田三郎氏の写真などを提示し、より具体的な話をしていただいた。故郷の偉人を通して、美山地区の良さに気づいたり、見直したりするよい機会となった。

(3) 地域コーディネーターの活動概要

- ・美山特産のそばを栽培するにあたり、休耕田の田起こしと整地
- ・南宮地産のそばの特徴や種の撒き方についての説明
- ・学校でとれた米の精米
- ・太巻き寿司のための前日準備（食材やテーブルの準備）
- ・出前授業の講師の紹介

(4) 特に工夫した事項

- ・長い間休耕していた水田を起こし、そばの種が芽を出すように畝も作ってもらった。種を蒔く時期に合わせるために、8月2日を学年登校日として、暑さを考慮して朝の早い時間からそばの種蒔きを行った。種を蒔く前には、コーディネーターの方から、在来種南宮地産は早生の品種で特に香りが良く、福井県でも推奨されている品種であることを聞いた。
- ・今年は、5、6年生が複式のA年度（5年生の内容）を学習するために、農業や産業等の学習を行うため、5・6年生が米作りを行うことにした。田植えや稲刈りなど特に鎌を使う場面では安全に気をつけて行った。

3 成果と課題

- ・今年度のカリキュラムを考慮し、3・4年生でそば栽培を行った。しかし、猛暑のため、上手に育てることができなかった。天候に応じて植え方や育て方を工夫するなど地域コーディネーターの方との詳しい打ち合わせをする必要があった。
- ・地域の方々と各学年でいろいろな活動が計画されているが、地域に愛着がもてるような学習が推進されるよう、コーディネーターを通して、人材や素材を発掘し、児童の興味関心が高められるような新たな題材を見つけていきたい。